



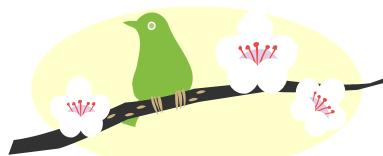
旭川医科大学病院

平成25年2月号
発行: 卒後臨床研修センター

卒後臨床研修センター通信

センターの活動予定等

- ◆3月13日(水) 症例発表会
- ◆3月21日(木) 修了式
- ◆3月下旬 卒後臨床研修センター通信3月号発行



お知らせ

4月初旬に平成26年度の研修プログラムについて説明会を開催予定です。日程が決まりましたら、学内メール及び学内掲示板にて通知いたしますが、確認が困難な第5学年の学生さんは、確実に情報を受け取れる連絡先、連絡方法を卒後臨床研修センターまでお知らせください!!

母校の紹介 第14回 健康科学講座

健康科学講座は、人間環境保健分野（旧衛生学講座）と地域保健疫学分野（旧公衆衛生学講座）よりなっており、環境保健、産業医学、疫学、公衆衛生といった分野を担当しています。産業医学の分野では、北海道の産業医学に重要な役割を果たしており、基礎的な産業医の職務について研修することができ、講座内には医師会認定産業医の上位資格とされる、労働衛生コンサルタント有資格者、日本産業衛生学会専門医・指導医がおり、道内の医科大学・医学部で唯一の専門医研修施設となっています。



また、公衆衛生医として、北海道庁など数多くの保健所医師や行政職のOBが活躍していますので、その連携を行っています（写真は、第62回北海道公衆衛生学会を当講座が主催した時）。その他、疫学・臨床研究の研究デザイン・サンプルサイズの計算、実際の統計解析も専門にしています。研修医や医員などをしながらでも、産業医学、公衆衛生医、疫学研究、臨床疫学方法論などに興味のある方、大学院を希望される方は気軽に相談に来て下さい。

研修医体験談 第13回 宮田 雅大 先生

月日が経つのは速いもので、もう2年間の研修期間が終了しようとしています。研修医体験談執筆の機会を頂いたので2年間の研修について少し振り返ってみようと思います。

自分の場合は第一内科に入局し、将来循環器内科を志していたので、1年目は大学病院で内科（循環器、糖尿病、呼吸器）、救急、麻酔科、心臓血管外科と幅広く研修をした後、2年目からは網走厚生病院（循環器科、内科・消化器科）、名寄市立総合病院（循環器科、消化器科）という地方中核病院での研修を行い、その後大学病院に戻り神経内科、放射線科を研修するという少し慌ただしくも充実した研修を送りました。



それぞれの病院での研修を振り返ると、大学病院での研修は豊富なスタッフ（上級医）と全ての科が揃っているのも、1症例1症例をしっかり学んだり、地方病院ではなかなか研修しにくい科（心臓血管外科、神経内科、放射線科）を選択することなどについてはとても有意義な研修を送れたと感じました。その他にもCT/MRIは全て放射線科が読影してくれるので、画像診断の答え合わせをすることができます！（外の病院では読影依頼が必要です…）。その反面、手技的なもの（心臓カテーテル検査、ペースメーカー留置術、上部消化管内視鏡検査など…）は受け持ち症例が少ない分、経験できる数は少ないと感じる部分がありました。

一方外病院では、症例が多く、スタッフが少ないので、技術的なものを磨いたり、心筋梗塞、心不全、イレウス、胆嚢炎、大腸癌などの症例を豊富に経験することができました。その反面、上級医は業務に忙しく、上級医についてもらってやるのではなく、「自分ができる範囲内は積極的に自分でやる」ことがとても重要で、自分だけで対処しなければならない場面が多々あったおもいます（病棟の患者や当直患者を基本的には自分一人に対応・判断したり、循環器科においては患者・家族に対するICを自分で考え、一人で説明したり…）。また受け持ち患者数も担当患者制で10人…、チーム制で20～30人…と多く、把握して、その患者のアセスメント・プランを立てるだけで一杯一杯になることもありましたが（大学では概ね担当患者3～5人程、チーム制で8～15人程です）。

自分としては最初の1年間をスタッフが充実し、じっくりと1症例1症例学ぶことができる大学病院で研修し、そこで学んだこと、身につけたことを、症例豊富な外病院で活かし、磨くという研修は理にかなったものであったと感じました。大学病院での研修といっても皆様々で、自分のように色々な病院で研修をするのも珍しい？かと思いますが、一つの体験例として御覧頂けたら幸いです。

最後にどこの研修病院でもそれぞれに利点・欠点はあると思います。どこの病院で研修を行ったとしても、自分の中で精一杯患者を診て、学んで活かすことで有意義な研修を送ることができるんじゃないかと思っています。これから研修に入る皆さん頑張って下さい！僕もまだまだ頑張ります！

【お問い合わせ先】 旭川医科大学病院 卒後臨床研修センター

〒078-8510 北海道旭川市緑が丘東2条1丁目1-1

TEL:0166-68-2198 FAX:0166-68-2199

E-mail: sotsugo@jim.u-asahikawa-med.ac.jp

http://www.jimu.asahikawa-med.ac.jp/shomu/sotsugo/ ※ホームページもご覧ください